

複合遺産における自然と文化の関係性

－ 先住民地域に着目して

The Nature-Culture Linkages in Mixed World Heritage

－ Focusing on the Indigenous Territories

姚喬馨

YAO YUHSIN

1. はじめに

(1) 研究背景

1972年、世界遺産条約は、自然遺産と文化遺産を一体的に保護しようとする枠組みとして採択されたが、条約における自然と文化の分断についていまだに議論が続いている。

1992年の文化的景観の導入とともに、自然と人間の共同作品という新たな視点が広げられ、自然と文化の関係性に対して関心が明確に向けられた一方、文化的価値がより強調されることが多いという意見もあった。2005年、作業指針の改訂により、文化遺産と自然遺産の評価基準が一つにまとめられ、また、文化遺産と自然遺産の評価基準を同時に満たす資産という複合遺産の定義が公式に採択された。しかし、この定義によれば、複合遺産は、自然と文化の関係性を評価するのではなく、自然と文化を別々のものとして評価するものと指摘されている。

2013年、複合遺産として世界遺産リストへの登録を申請したカナダのピマチョイン・アキは、自然的価値と文化的価値が諮問機関によって別々に評価された結果、登録が延期された。これに対してピマチョイン・アキに住む先住民は、自然と文化を分断せず人と自然の関係性を評価すべきだと主張した。これ以降、複合遺産の定義や評価プロセスに対して検討が行われ、自然と文化の関係性についてさらに議論されるようになった。

(2) 研究目的

本研究は、39件の複合遺産に見られる自然と文化の関係性を考察し、自然と文化を包括的に保全・管理する方法を把握することを目的としている。これまでの複合遺産の登録傾向、複合遺産における自然と文化の関係性、また、先住民がどのように自然と文化を認識し、包括的に保護してきたかを明らかにする。

(3) 研究方法

本研究は、ユネスコ世界遺産センターのウェブサイトにある推薦書、諮問機関による評価書や管理計画などの関連文書、管理組織による情報や研究文献に基づき、39件の複合遺産の登録年代、所在地域、適用された評価基準を分析し、複合遺産に見られる

自然と文化の関係性について考察し、分類した。なお、先住民が住む2件の複合遺産を対象として詳細な事例研究を行った。

2. 複合遺産の登録傾向

(1) 所在地域

39件の複合遺産のうち、アジアが10件で最も多く、次いでラテンアメリカが8件、ヨーロッパが7件、アフリカとオセアニアが同じ6件、北アメリカが2件のみで最も少ない。(図1)

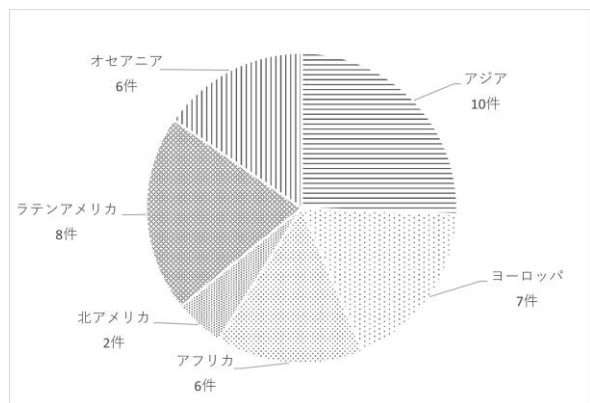


図1. 各地域の複合遺産登録数

(2) 登録年代

各年代の登録数を分析した結果、1980年代と2010年代は、複合遺産登録のピークであった。一方、1990年代には少し減少、2000年代にはさらに減少し、3件しか登録されなかったことがわかった。(図2)

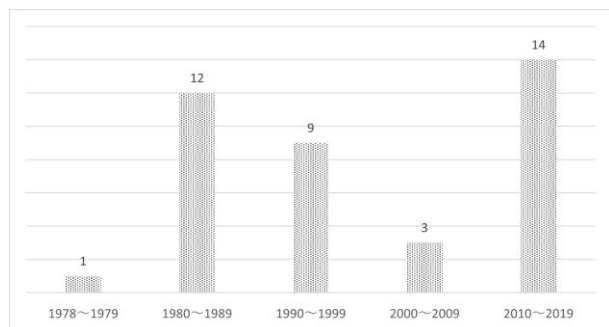


図2. 各年代の複合遺産登録数

(3) 適用された評価基準

2000年代以前は、自然美に関する(vii)がもっとも多く適用されたが、それ以降は減少傾向となった。

一方、生態系に関する(ix)と生物多様性に関する(x)は 2000 年代以降に増加傾向に見られた。また、アジア、ヨーロッパ、アフリカでは (vii) 自然美、オセアニアでは (viii) 地形地質、ラテンアメリカでは (ix)生態系と(x)生物多様性の基準が多く適用された。

3. 複合遺産における自然と文化の関係性およびその類型

39 の複合遺産における自然と文化の関係性を考察し、自然と文化の関係性が見られない複合遺産を「並行的」複合遺産、関係性が存在する「融合的」複合遺産の 2 つに分けた。さらに、「融合的」複合遺産に見られる自然と文化の関係性に関する要素を、「独自の自然観を持つ先住民文化」、「自然信仰・崇拜」、「自然に働きかける生業」の 3 つに類型化した。

自然と文化の関係性の存在とその類型に関連するキーワードを設定し、推薦書や評価書からキーワードの存在、および関連記述に基づいて分析した。

結果として、「並行的」複合遺産は 16 件、「融合的」複合遺産は 15 件あった。なお、関係性が不明瞭で分類できなかった複合遺産は 8 件であった。次に、複数の要素を持つ複合遺産があることを前提として、「融合的」複合遺産を類型化した結果、「独自の自然観を持つ先住民文化」が 11 件、「自然信仰・崇拜」が 10 件、「自然に働きかける生業」が 6 件見られた。

4. 事例研究

3 つのタイプのすべてに合致したスウェーデンのラポニア地域とカナダのピマチョイン・アキを事例研究の対象とし、先住民がどのように自然的価値と文化的価値の両方を一体的に捉え、保護してきたかを明らかにした。

(1) ラポニア地域

1996 年に登録されたスウェーデンのラポニア地域は、先住民サミー人の伝統的土地である。保全管理の枠組として、サミー人、所在する県、地方自治体と国の関係者の参加による管理体制が作られており、サミー人の権利と意思が重要視されている。

ラポニア地域に住んでいるサミー人の文化、社会と経済は、環境に依存しているトナカイの放牧と切

り離すことはできない。そのため、ラポニア地域が持つ価値の基になった自然環境、サミー文化とトナカイ産業、土地利用から生じる歴史的遺産はお互いに切り離せず、人と自然との一体性が形成したと強調されている。国立公園、自然保護区の枠組みをもとに、サミー人による伝統的知識に基づく地域の保護と管理が行われている。サミー人による文化と自然との一体性に対する理解に基づいた包括的な保全・管理が実践されていると考えられる。

(2) ピマチョイン・アキ

カナダのピマチョイン・アキは 2018 年に複合遺産として登録された、先住民アニシナーベ族の居住区である。アニシナーベ族の人々をはじめとする地域関係者が管理体制に参画しており、口承伝統と伝統的知識を保有している長老たちの意見が特に重視されている。

文化的景観を構成する要素、アニシナーベ族の人々と土地とのつながりと相互作用は、ピマチョイン・アキの保全と管理の中心とされている。古くから自然に恵まれてきたアニシナーベ族は、土地に対して敬意を持っており、文化的、精神的に自然と関わっている。アニシナーベ族は、伝統的信仰、知識を代々継承し、自然を保護し、人間活動による影響を最小限にして暮らしている。アニシナーベ族の文化と自然との切り離せない関係性に基づいた包括的保全管理が確立されていると考えられる。

5. まとめ

複合遺産には、自然的価値と文化的価値が別々に捉えられている資産が存在する一方、両方の関係性が強い資産もあった。特に先住民地域には、文化、精神や経済上に先住民の自然との密接な関係が示された。地域が持つ自然的・文化的価値を今後も継承していくには、自然と文化の関係性に対する十分な理解と包括的な保全管理が不可欠と思われる。そのため、自然的と文化的価値の関係性に対する認識の共有および、地元住民の管理体制への参画が必要とされている。さらに自然と文化の関係性の観点に基づいた、遺産保護と持続可能性に関する研究をより一層進めることが望まれている。

Abstract:

This study clarified the registration trend of Mixed World heritage and the linkages between nature and culture seen from the Mixed heritage. The purpose of this study is to understand the ways to manage the value of the relationship between nature and culture without dividing it into nature and culture. This study analyzed the trend in the inscription of Mixed heritages, and categorized the Mixed heritage based on the relationship between nature and culture and the type of relationship. In addition, I conducted a case study was for two Mixed heritages where indigenous people are living in.